

令和6年2月15日

久留米市議会議長 吉富 巧 様

教育民生常任委員長 秋永 峰子

## 委員派遣実施報告書

本委員会は、次のとおり委員派遣を実施しましたので、報告書を提出します。

### 記

- 1 日 程 令和6年1月15日（月）～17日（水）
- 2 派 遣 先 兵庫県神戸市：こども・若者ケアラー支援について  
及び内容 大阪府高槻市：高槻子ども未来館について  
兵庫県豊岡市：演劇を通じた文化芸術の振興について
- 3 派遣委員 委員長 秋永 峰子  
副委員長 大熊 博文  
委員 堀田 洸太郎、長野 哲、草場 公晴、山崎 ケブン、  
坂田 光弘、佐藤 晶二
- 4 報 告 書 視察報告書のとおり
- 5 そ の 他 随行 最所 璃江

## 視察報告書

委員会名	教育民生常任委員会
視察日時	令和6年1月15日（月） 午後1時30分 ～ 午後3時
視察先・概要	兵庫県神戸市 人口：約150万5千人 面積：557.03 k m <sup>2</sup> 特記事項：政令指定都市
視察内容	こども・若者ケアラー支援について
選定理由	本市では、令和5年度にヤングケアラー実態調査を実施している。今後、調査結果を元に様々な施策がなされると思うが、どのような施策が有効なのか参考にするため。
調査概要	神戸市役所にて、神戸市福祉局相談支援課 こども・若者ケアラー相談・支援窓口の上田課長から神戸市の「こども・若者ケアラーへの支援」について説明を聴取し、その後、質疑応答を行った。
調査内容	<p>令和元年10月に20代の若者が同居の祖母（90歳・認知症あり）を殺害した事件をきっかけに孤立する若者ケアラーの問題が浮き彫りになった。</p> <p>神戸市では、令和2年11月にプロジェクトチーム（福祉局、健康局、こども家庭局、教育委員会事務局から編成）で検討を開始。急いで様々な部署から事例収集を行ったところ、1週間で70以上の事例が集まり、把握していた部署からはどこに相談していいか分からなかったという声があった。令和3年度から3つの施策を行うことを決定し、10代だけでなく20代の支援も行っている。</p> <p><b>【施策1】 相談・支援窓口の設置</b></p> <p>課長級1名、係長級1名、相談人4名の合計6名体制で窓口を設置している。相談は、本人からの相談よりも関係機関からの相談が多く、現在までに186件の相談があっている。しかし、そのうちの91件にしか接触できていない。個別ケースについては、週1回ケース会議を行い、支援方針を決定している。また月1回、大阪公立大学の濱島淑恵准教授よりスーパーバイズを受けている。</p> <p><b>【施策2】 身近な方々への理解促進</b></p> <p>学校、福祉、児童の関係者に対し、研修や事例検討を通して理解の促進をはかっている。116回公演、延べ6,000人ほどに対して行った。</p> <p><b>【施策3】 交流と情報交換の場</b></p> <p>概ね16歳から30歳までの神戸市在住、在勤、在学の方を対象に情報交換が</p>

できる場を設けている。場所は JR 神戸駅近くの神戸市青少年会館。電車やバスに乗って来ることのできる 16 歳以上を対象としており、4 名の方が定期的に来ていて、小学生などは子ども食堂につないでいる。



<視察の様子：会議室にて説明を受ける様子>

主な質問・  
応答

問：予算はいくらか。

答：2,289 万円が窓口業務、200 万円がふうの広場、883 万 9 千円が訪問事業である。

問：子供は自分がケアラーだと判断できない可能性があるが、学校において先生はどのように対応しているのか。

答：養護教諭が大切な役割を果たすと考えるため、養護教諭への研修を行っている。

問：ヤングケアラーへのアプローチとして何か次の手を考えているか。

答：次の手は難しいが「相談を断らない窓口」として、何でもいいから相談して欲しいと庁内や学校などに周知している。そのため最近是不登校に関する相談なども受けている。

問：当事者のグループを作る上で工夫されたことは何か。

答：窓口の職員が誘うよりも SNS でのふうの広場の開催発信が効果的である。

	<p>また、若者ステーションや大学の学生センターと連携して、ふうの広場の開催案内を置くなどの工夫をしている。</p>
<p>その他（意見・感想）</p>	<p>ヤングケアラーを見つけるためには、本人やその家族からの相談ではなく、周りがヤングケアラー支援の視点を持つことが有効な方法とのことだった。また、県の配食サービスモデル事業は、ヤングケアラーのいる家庭から配食希望があるため、ヤングケアラーの存在に気づくのに有効な手段であったとのことだった。</p> <p>久留米市においても、実態調査を基にしたヤングケアラーへの支援がこれから本格化する。しかし、実態を把握しても支援する対象を把握することが困難であるため、市民啓発講座だけでなく、民生委員やスクールカウンセラーなど関係者への研修などを通じたヤングケアラーに気づける土壌づくりが必要だと感じた。</p> <p>なお、関係者の研修について、神戸市は、生活保護部局から事例を出してもらい、こども・若者ケアラー相談・支援窓口の職員が中心となって事例集をつくり、新人ケースワーカーの研修としてフィードバックを行ったことで、ケースワーカーの気づきが増えたとのことだった。今後、生活保護のケースワーカーだけでなく、ケアマネージャー、障害者世帯を支援する職員など、年度ごとに研修を行うターゲットを決めて、周囲が気づきを増やす研修を行う予定だということであった。神戸市のように関係者への効果的な研修を行うこともヤングケアラー支援の一步になると考える。</p>

## 視察報告書

委員会名	教育民生常任委員会
視察日時	令和6年1月16日（火） 午前10時 ～ 午前11時30分
視察先・概要	大阪府高槻市 人口：約34万8千人 面積：105.29k㎡ 特記事項：中核市
視察内容	高槻子ども未来館について
選定理由	民間の調査によると本市は「子育てのしやすさランキング」で九州第3位となったが、子育てに関する相談や、発達に関する支援体制の構築など、子どもたちの成長を支えていくさらなる取組が必要である。「子どもが主役となる拠点」として整備された高槻子ども未来館を視察することで、本市における今後の子育て拠点施設の在り方の参考とするため。
調査概要	高槻子ども未来館にて、子ども未来部保育幼稚園総務課 門屋課長代理及び子ども保健課 坂口課長代理から、高槻子ども未来館について説明を聴取し、質疑応答を行った。その後、現地視察を行った。
調査内容	<p>高槻市では、平成29年度時点で22の公立幼稚園、13の公立保育所があった。幼稚園需要が減り保育所の需要が増えてきていた中、子ども・子育て会議に諮問し、地域や小学校と就学前の児童施設をつなぐコーディネート役として、公立の認定こども園配置計画を推進してきている。</p> <p>平成31年4月に開館した高槻子ども未来館は、3階建ての建物で、1階が認定こども園、2階が子ども保健センター、3階が子育て支援人材育成施設である。</p> <p>1階の認定こども園は、高槻市で最大の施設となっており、定員190名の保育所とともに、休日・一時預かり保育室があり先着順で随時利用（急な仕事などの場合。1時間単位）や定期利用（求職活動など一定期間預けたい場合。最大3か月）ができるようになっている。また病児保育も行っている。</p> <p>2階の子ども保健センターは、母子手帳の交付、妊娠・出産・育児の総合相談、妊娠期～子供の歯磨き教室などの各種教室、乳幼児健康診査を行っている。</p> <p>3階の子育て支援人材育成施設は、公立保育士等の質の向上のための様々な研修を行っており、市全体の質の向上に向けて、公私合同研修も行っている。また職場復帰支援の講座や現場課題解決講座も行っている。</p> <p>なお建設に当たり、大きな財源は国府補助の9.6億円であり、特筆すべきは、国土交通省の立地適正化計画に係る補助金を利用したとのことだった。</p>



<視察の様子：双子・三つ子の保護者交流会を見学する様子>

主な質問・  
応答

問：安満遺跡公園に隣接しており、ボーネルンドプレイヴィル安満遺跡公園もあるなど、周辺を含めると広大な子供関連の施設であるが、認定こども園の子供たちなどはどのように利用しているか。

答：園庭が広くないので、認定こども園の子供たちも公園を利用している。また、乳幼児健診に来られた方も利用している。公園の運営は民間に委託しており、飲食物の販売や夏場は大きなプールが設置されている。遊具はないが、広々とした場所なので自由な使い方ができる。

問：高槻子ども未来館をここに立地した理由は。

答：もともと京都大学の農場だったと聞いている。そこを取得して、公園と一緒に子供の施設も造ったと聞いている。災害が起きた場合に備えて、隣接地には防災倉庫や雨水貯留施設も造っている。

問：保育士等の質の担保が必要だと思うが、非正規職員の方が多いので研修の日程調整が難しいのではないか。

答：会計年度任用職員は、時間額制で週3日勤務などを希望する方が多いため、集合研修は難しい。会計年度任用職員の研修については、園内研修に頼らざるを得ない現状である。

	<p>問：1つの施設にいろいろな機能があるがメリットは。</p> <p>答：保健師がたくさんいるので、健診の際、発達に課題がある場合などは相談しやすいメリットがある。市役所内で連携を取るのは当然だが、様々な部分でコミュニケーションが取れ、物事が進みやすいと感じている。</p>
<p>その他（意見・感想）</p>	<p>久留米市も公立保育所の老朽化などが進んでいるが、老朽化した施設単体はどうするかだけではなく、少子化の状況を踏まえつつ、子供に携わる一貫した施設整備の検討や私立の保育園・幼稚園も含めた全体的な在り方の議論をしていく必要があると感じた。また、その議論の際は、必ず財源が問題となってくるが、高槻市のような他の視点からの補助金も活用できるように知恵を出していかなければならない。</p>

## 視察報告書

委員会名	教育民生常任委員会
視察日時	令和6年1月17日（水） 午前10時 ～ 午前11時30分
視察先・概要	兵庫県豊岡市 人口：約7万7千人 面積：697.55 k m <sup>2</sup>
視察内容	演劇を通じた文化芸術の振興について
選定理由	豊岡市は、文化芸術を通して小さな世界都市の実現に向けてまちづくりを進めている。久留米市も久留米シティプラザを拠点として文化芸術に触れる機会を創出したり、市民団体への補助によって自主的な文化芸術活動を支援したりしてきたが、豊岡市の演劇を通じた文化芸術の振興について学ぶことで、市民生活をさらに豊かにするヒントとするため。
調査概要	城崎国際アートセンターにて、豊岡市議会 竹中理副議長の御挨拶に続き、観光文化部文化・スポーツ振興課 大岸参事、中村補佐、垣谷主幹、及び観光政策課木村主査から演劇を通じた文化芸術の振興について説明を聴取し、質疑応答を行った。その後、城崎国際アートセンター館内の視察を行った。
調査内容	<p>文化芸術の振興は、コウノトリの再生とジェンダーギャップの解消とともに、豊岡市の3大方針の一つとして位置づけられている。</p> <p>文化芸術の振興の主な事業として、以下3つを記載する。</p> <p><b>【アーティスト・イン・レジデンス（城崎国際アートセンター）】</b></p> <p>県から払い下げを受けた城崎温泉街にある会議・宿泊施設を2014年に国内最大級の舞台芸術家のための宿泊型創作施設として再整備した。現在は、公募で選ばれたアーティストが作品創作のため世界中から訪れている。アーティストは最大3か月間ホール・スタジオ等を24時間無料で使用可能で滞在費も無料であるが、ワークショップなどの交流プログラムを通じて市民が芸術活動に触れられるようにすることが滞在の条件となっている。アートの世界では、どこで作品を作ったのかが重要視されるため、口コミで名前が広がっているとのことであった。</p> <p><b>【豊岡演劇祭】</b></p> <p>コロナ禍の令和2年9月に初開催した演劇やダンスを中心とした舞台芸術フェスティバルである。令和5年は、招聘した公式プログラムと公募のフリンジプログラム等合わせて23,647人の来場があり、劇場だけでなく路上でも演劇等を楽しめるようになっている。市の速報値によると観光消費額は1億1,260</p>



万円、経済波及効果は1億9,142万円であった。今後は海外に向けた発信も強化していきたいとのことだった。

【子ども参加型演劇（サンタクロース会議）公演】

市内全小学2年生を対象として、子どもの意見を取り入れながら進行する「参加型演劇」を通じて子供たちの非認知能力の向上を図っている。小学2年生を対象としているのは、自分の意見が言える年齢だということと、サンタクロースの存在について夢を持っている年齢のためということであった。



<視察の様子：城崎国際アートセンター内で説明を受ける様子>

主な質問・  
応答

問：久留米市も様々なジャンルの文化芸術の振興に取り組んでいるが、一貫性を持つことが難しいと考える。どのように取り組んでいるか。

答：本市も一貫性については道半ばである。地方創生の取組として「深さを持った演劇のまちづくり」について理解が進んでいなかったこともあったので、地域とつながる取組を進めていくことが今後の課題である。

問：城崎はレジデンスとしての利用に場所が向いていたと考えるか。

答：温泉街であり観光業を主な産業としている土地柄、外から来る方へ寛容である風土があった。閉鎖的な土地柄の場所にレジデンスをつくるのであれば難しかった可能性もある。

	<p>問：縦割り行政の中でどの部署が中心となって進めているか。</p> <p>答：平田オリザさんを委員長として、担当部署や各ホールの館長が集まる文化芸術連携会議を年4回行っている。ジャンルの広い文化政策をしていきたいと思っている。</p> <p>問：豊岡演劇祭のフリンジプログラムには212団体からの応募があり、そのうち73団体が演劇等を行ったと伺ったが、どのように選んでいるか。</p> <p>答：応募者に事業内容と予算、希望会場を出していただいている。採択する団体には支援金も出すので、内容のいいものやジャンル、予算など総合的に判断して採択している。</p>
<p>その他（意見・感想）</p>	<p>城崎国際アートセンターの前身の建物は、県から払い下げを受けるに当たって、年間1,500万円以上の維持費がかかることや、貸館事業のみでは稼働率の低さが課題であったということだった。2014年に城崎国際アートセンターとしてオープンしたが、ここをアーティストの制作の場として位置づけることで、単に貸館事業だけではなく世界のアーティストの作品づくりの起点としての価値を生み出している。建物自体は築40年と古いものでバリアフリー化が進めにくいとのことだったが、1階のロビーには作品のシナリオなどアートに関する本がおしゃれに展示されるなど明るい雰囲気であり、古さを感じさせなかった。</p> <p>今後、豊岡演劇祭もカンヌ国際映画祭のように世界に注目されるイベントにしていくとの話や、演劇の手法を用いて子供たちのコミュニケーション能力の向上に取り組むなど、文化芸術振興が総合戦略の一つの手段とされることで、文化面だけでなく、観光面・教育面など大きな広がりにつながっていると感じた。</p> <p>久留米市も様々な事業を行っているが、「芸術のまち」などのコンセプトを打ち出しながら事業を行うことで、波及効果が生まれていくのではないかと考えた。</p>